

日本語の間接疑問構文の発達をめぐって

—近代から現代へ—

国立国語研究所・プロジェクト非常勤研究員
志波 彩子

0. はじめに

高宮（2003, 2004, 2005）の一連の研究により、日本語の間接疑問構文の歴史的な発達の過程が徐々に明らかにされてきた。本研究は、現代日本語から時代をさかのぼることでその発達の様相を明らかにし、間接疑問構文とこれに関連する他の構文との相互交渉の在り方（ネットワーク）を明らかにすることを目標としている。本発表では、現代日本語のコーパスと近代語のコーパスから抽出された間接疑問構文とその周辺の構文タイプの分布を示しながら、近代語と現代語における違いを記述する。

1. 方法とデータ

扱ったテキストは、『CD-ROM 明治の文豪』（新潮文庫）の中から夏目漱石の数作品を除いた作品と、『CD-ROM 新潮文庫の 100 冊』（新潮文庫）の戦後の作品から任意に選んだ 25 作家の 31 作品である。これらを、『Chaki ([ChaKi.NET 2.096 Revision 498](#))』を用いて形態素解析し、表出形が「か」かつ品詞が「助詞」という条件で検索した。検索結果は本稿末の表を参照されたい。抽出した用例について、「賑やか」「裸か」「かぶり」など、助詞の「か」ではない用例を削除し、また「A か, B か, C か...」のような並列のカ節については最後のカ節を残してそれ以外は削除した。慣用表現（そうか、どうか、いいか、～よりか、etc）と「疑問詞+か」（何か、いつか、いくらか、何枚か、etc.）を別にし、さらに「動詞+か」「名詞（+助詞 or +コピュラ）+か」、「動詞+のか」、直接疑問を分けた。今回の調査では、動詞¹に直接「か」が後接する用例（ただし、「かどうか」は含む）を対象とした。それぞれの割合は以下の表 1, 2 に示した²。

今回の発表では、下の表 1, 2 の動詞に直接「か」が後接する用例（近代語 2084 例、現代語 1598 例）を中心に扱う。

1 わずかながら形容詞も含まれる。

2 ただし、「動詞+か」以外の用例には、重複用例や削除すべき用例（ノイズ）が残っている可能性がある。

表1：近代語：助詞「か」の分類

動詞+か	名詞+か	動詞+のか	疑問詞+か	直接疑問	慣用表現	TOTAL
2084	1210	689	1552	³ 3966	213	9714
21.5%	12.5%	7.1%	16.0%	40.8%	2.2%	100.0%

表2：現代語：助詞「か」の分類

動詞+か	名詞+か	動詞+のか	疑問詞+か	直接疑問	慣用表現	TOTAL
1598	708	753	1278	3781	86	8204
22.6%	8.6%	9.2%	15.6%	46.1%	1.0%	100.0%

「動詞+か」の用例における間接疑問構文は、近代語が492例、現代語が596例であった。間接疑問構文に関わる周辺の構文については3節で詳しく見るが、以下のような構文を周辺の構文として分けた。

- (1) 宮ははや気死せるか、推伏せられたるままに声も無し。(金色夜叉 M)：背景注釈構文（二文連置）
- (2) お泣きなさるな、お願いだから！一どうしてもしたら、お力になれるか、それをお話しくだされ！(小泉八雲集 M)：照応構文（二文連置）
- (3) 「何時伺ったら好いか御都合を聞かして頂きたいんですって」(道草 M)：潜伏疑問構文（二文連置）
- (4) 【前略】恐れ入ます、お召物が濡れますと言ふを、いいさ先させて見てくれろとて氷袋の口を開いて水を搾り出す手振りの無器用さ、雪や少しはお解りか、兄様が頭を冷して下さるのですよとて、母の親心付れども何の事とも聞分ぬと覚しく、目は見開きながら空を眺めて、あれ綺麗な蝶が蝶がと言ひかけしが、【後略】(にござえ・たけくらべ M)：引用構文
- (5) 人目を恐れる様になっては、もはや罪悪を犯しつつあるかの如く、心もおどおどするのであった。(野菊の墓 M)：仮想構文
- (6) 「お話をなさるか、でなければ何か読んで下さいな、そら此間オネーギンを読んで下さったでしょうーね、ああいう様に……」(あいびき・めぐりあい M)：選言構文
- (7) 今の三越の向側に何時でも昼席の看板が掛かっている、その角を曲ると、寄席はつい小半町行くか行かない右手にあったのである。(硝子戸の中 M)：前後構文
- (8) 物音は罷まぬのみか、次第に高まって、近づいて、遂に思い切った濶歩の音になると一少女は起き直った。(浮雲 M)：慣用構文
- (9) 僕の飛び乗るが早いか、小舟は入江の方へと下りはじめた。(牛肉と馬鈴薯・酒中日記 M)：慣用構文
- (10) 「まごまごしてると、己が家もつん燃されて了うかも知んねえだ。本当にまア、何うしたら

³ 例文(4)のように、近代語の文章は読点で続いていくものが多いため、すべての直接疑問文を取り出せていない可能性がある。

「好きなだけ」（重右衛門の最後 M）：慣用構文⁴

表3：近代語：「動詞+か」（2084例）の分類

間接	連置	引用	仮想	選言	前後	慣用	不明	TOTAL
492	478	⁵ 937	65	42	20	43	7	2084
23.6%	22.9%	45.0%	3.1%	2.0%	1.0%	2.1%	0.3%	100.0%

表4：現代語：「動詞+か」（1598例）の分類

間接	連置	引用	仮想	選言	前後	慣用	方言	不明	TOTAL
596	199	565	127	27	12	49	20	3	1598
37.3%	12.5%	35.4%	7.9%	1.7%	0.8%	3.1%	1.3%	0.2%	100.0%

上の表3と4を比較する限りでは、現代語においては「動詞-カ」による用例において間接疑問構文の割合が高くなっていることがうかがえる。以下、間接疑問構文の用例を詳しく見ていく。

2. 間接疑問構文の分類（近代語 492例，現代語 596例）

ここでは、まず間接疑問構文を間接疑問節（カ節）とその主節動詞との関係によって、心理述語構文、相関構文、内容構文という3つのタイプに分けて、それぞれの特徴を見ていく。それぞれの割合は以下の通りである。

- (11) 鶏が何をしているか知らないばかりではない。（阿部一族・舞姫 M）：心理述語構文
- (12) 帰るか帰らぬかは吟子の意志に任せるといふ友子の気持に違いなかった。（花埋み）：相関構文
- (13) この数日の間に、自分の顔が以前と違う感じになってしまっていて、そのことに江美子が気付いたのではあるまいか、というおそれがあった。（砂の上の植物群）：内容構文

表5：近代語：間接疑問構文の分類

心理述語	相関	内容	TOTAL
427	2	63	492
87%	0%	13%	100%

⁴ なお、現代語においても近代語においても、「節-かも知れない」が「助詞か」として解析されているのは、「知れない」が漢字表記の場合のみである。ひらがな表記（かもしれない）は、1つのモダリティー表現として解析されているようである。

⁵ 先の例文(4)のような例が多いため、引用構文の割合が高くなっていると考えられる。

表6：現代語：間接疑問構文の分類

心理述語	相関	内容	TOTAL
428	9	159	596
72%	2%	27%	100%

現代日本語の論説文のデータには、相当数の相関構文が現れるが、今回扱った文学作品のデータにおける割合は著しく低い。論理的な思考に関わる構文であるため、論理的思考を展開する文脈構造の中で多用されるものと考えられる。

今回調査した近代語と現代語のデータを比較すると、現代語においては、心理述語以外の構文の割合が若干増えていることが分かる。

2.1 心理述語構文 対 象 A スルカ(助詞) 心理 V (近代語 427 例, 現代語 428 例)

心理述語構文とは、間接疑問節を受ける述語が心理動詞である構文タイプである。心理述語構文は、カ節で表される情報を話し手が有しているか否か（それが話し手自身の疑念であるか否か）によって、未決、既決、対処、不確定（藤田 1997 の分類を改変）に分けられる。

心理述語構文において、近代語と現代語の違いとして顕著だったことの1つに、カ節にダロウが含まれる例がわずかながら見られることがある。当時、未だ表現にゆれがあったと考えられる。

- (14)もし父から物質的に供給の道を鎖された時、彼は果して第二の寺尾になり得る決心があるだろうかを疑った。(それから)⁶
- (15)そうして、大きな空を仰いで、彼の前に突如として已んだ様に見えるこの劇が、これから先どう永久に流転して行くだろうかを考えた。(彼岸過迄)
- (16)彼は今の自分が、結婚当時の自分と、どんなに変わって、細君の眼に映るだろうかを考えながら歩いた。(道草)
- (17)御米はその時真面目な態度と真面目な心を有って、易者の前に坐って、自分が将来子を生むべき、又子を育てるべき運命を天から与えられるだろうかを確めた。(門)
- (18)彼はこの袴を着けた男の身の上に、今何事が起りつつあるだろうかを想像したのである。(門)
- (19)私は考へる、たとへばこの鳴沢の翁の為た事が不都合であらうか知れん、けれども間貫一たる者は唯一度の不都合ぐらゐは如何にも我慢をしてくれんければ成るまいかと思ふのだ。(金色夜叉)

高宮 (2005) は、室町時代と江戸時代における間接疑問文の主節述語の特徴について、「一つには全体的に<未決>タイプが多いこと、二つには<未決>タイプと<対処>タイプが

⁶ 『それから』と『彼岸過迄』(いずれも夏目漱石)は統計をとったデータではないが、参考までに例を挙げた。

見られ、<既決>タイプは現れないこと、三つには<対処>タイプは願望のタイが付くか、命令形の形を取る」と述べている（pp.100-101）。

近代語と現代語を比べると、わずかながら未決タイプの割合が下がり、既決、対処が増えていることがうかがえるが、依然、未決タイプが多いことに変わりはない⁷。

表7：近代語：心理述語構文の各タイプの割合

未決	既決	対処	不確定	TOTAL
310	40	63	14	427
73%	9%	15%	3%	100%

表8：現代語：心理述語構文の各タイプの分類

未決	既決	対処	不確定	不明	TOTAL
283	58	68	18	1	428
66%	14%	16%	4%	0%	100%

2.1.1 未決：話し手が情報を持っていない、話し手自身の疑念

未決タイプは、「知らない、分からない、思い出せない、覚えがない、不明だ、定かでない、見当もつかない、理解できない、判断できない、想像がつかない、迷う、怪しい、疑わしい、疑問だ」などの述語で、話し手がカ節で表される命題の情報を持っていないことを表す。話し言葉に近い文学作品のデータ（特に会話文の中で）では、「知らない、分からない」が述語の大多数を占める。

(20) 【前略】かく形よく生れたる身の不幸、不相応の縁につながれて幾らの苦勞をさする事と哀れさの増れども、いや阿闍こう言ふと父が無慈悲で汲取つてくれぬと思ふか知らぬが決して御前を叱かるのではない、身分が釣合はねば思ふ事も自然違ふて、此方は真から尽す気でも取りやうに寄つては面白くなく見える事もあらう、勇さんだからとてあの通り物の道理を心得た、利発の人ではあり随分学者でもある、【後略】（にぎりえ・たけくらべM）

(21) 自分は茫然自失してしまった、何と云つて善いか解らなかつた、が見知らぬ婦人もまた同時におやと忍びながらに叫んで、身を後方へ引いたかと思うと、すかし戸がぱったり閉つて観

⁷ なお、参考までに『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）における2001年の書籍（コア・非コア）における割合を示しておく。BCCWJから抽出された用例には論説文が多かった。このため、文学作品とはかなり異なった分布を示している。

表9：BCCWJ（2001年、書籍）における心理述語構文の各タイプの割合

未決	既決	対処	不確定	文脈不明	合計
328	313	378	23	12	1054
31.1%	29.7%	35.9%	2.2%	1.1%	100.0%

楼の中が一層暗くなった、とんと燈火を次の間へでも持出したように。(あいびき・めぐり
あいM)

表 10：近代語：「知らない」「分からない」の割合

知らない	分からない	心理述語
119	119	427
28%	28%	100%

表 11：現代語：「知らない」「分からない」の割合

知らない	分からない	心理述語
52	132	428
12%	31%	100%

高宮（2003，2004，2005）の調査から、間接疑問構文の述語はまず「知らない」から発生し、未決述語で用いられ始めたことが明らかになっている。近代語と現代語を比べると、現代語に置いては、「知らない」の割合がかなり下がっているが、これは、「かもしれない」が固定的な表現として定着したためと考えられる。よって、近代語と現代語でそれほど大きな違いはないと思われるが、個々の動詞を観察すると、現代語と近代語では用いられている動詞に多少のずれがあることもうかがえる。

(22)と酒井先生方の書生が主税に告げたのと、案ずるに同日であるから、其の編上靴は、一日に市中の何のくらいに足跡を印するか料られぬ。(婦系図 M)

(23)【前略】山は依然として太古、水は依然として不朽、それに対して、人間は僅か六千年の短き間にいかにその自然の面影を失いつつあるかをつくづく嘆ぜずにはいられなかった。(重右衛門の最後 M)

このほか、思考認識ではなく感情を表す動詞も未決に含めたが、数は多くない。

(24)その頃初めて牛込に住んだ人々は、必ず一度はこの声の何なるかに驚く。(生 M)

(25)【前略】でもどんな家ができてるか楽しみだわ」(楡家の人びと)

次の例はカ節とそれを受ける述語との距離が離れており、二文連置に近い。

(26)それがどのようなものであったか、性愛に類する体験のおありにならぬあなたにはもちろん、人間の誰にも感じることも想像することも不可能な快美感でした。(エディプスの恋人)

2.1.2 既決：話し手が情報を持っている、話し手以外の誰かの疑念

既決タイプには、「知っている、分かる、明らかだ、悟る、見た、確かめた、思い出す、教え込まれる、思い知る、判断する、気づいた、誇る、責める；言い当てる、言う、告げる、強調する、書く」などの述語を分類した。話し手がカ節で表される命題の情報を持つ

ていることを表わす構文である。

近代のデータは、当該の情報を得るに至る原因・理由節を伴う構文が多い。

- (27) 平の座敷か、そでないか、貴客がたのお人柄を見りゃ分るに、何で和女、勤める気や。(歌行燈・高野聖 M)
- (28) それと共に彼は隣の森の中の群集の囁々と騒ぐのを耳にして 自分が今何のために疾走して来たかを心づいた。(土 M)
- (29) 穏かに眠れる妻の顔、それを幾度か窺って 自己の良心のいかに麻痺せるかを自ら責めた。(蒲団・重右衛門の最後 M)
- (30) かくて邸内遊覧の所望ありければ、先づ西洋館の三階に案内すとて、迂廻階子の半を昇行く後姿に、その客の如何に貴婦人なるかを窺ふべし。(金色夜叉 M)

現代語データには、近代語には見られない、主語が経験者ではなく、事柄である例が見られる。

- (31) 菊栄の屈められた背に、贅肉がぶるぶるふるえて、菊栄がいかに作業に熱中しているかを示していた。(戦いの今日)
- (32) こうした前例破りが許されたのには、青洲の性格もさることながら、当時彼の実力がいかに勝れていたかを物語るといえよう。(華岡青洲の妻)

2.1.3 対処：話し手の情報獲得に関わる述語

対処タイプには、「考える、確かめる、想像する、聞く、尋ねる、相談する、調べる、探る、思案する、教えてください、味わう、どうでもいい、別にする、置いておく；思う」などを分類した。話し手がカ節で表される命題の情報を持っておらず、その情報獲得のために何らかの対策を講じる（講じない）ことを表わす構文である。

- (33) 彼等は嫖客に対する時、わが容姿の如何に相手の瞳子に映ずるかを顧慮するの外、何等の表情をも發揮し得ぬ。(草枕 M)

- (34) ああ云ふ主有る婦人と関係遊ばして、始終人目を忍んで逢引してみらつしやる事を触散しますから、それで何方が余計迷惑するか、比較事を致ませう。(金色夜叉 M)

近代語には、現代語ではよく用いられる「調べる」や、「別にする、置いておく、二の次だ」などの述語、また、次の例のように（-テミルがついているが）動作述語は見られなかった。

- (35) そう思って枕木が燃えているのを踏み消して、どんな臭がするか腹這いになって嗅いでみた。
(黒い雨)

近代語データには、「節かを おもふ」という用例が見られる。意味は、「節かを しみじみと思う」というような意味のようである。

- (36) 彼は己の不幸の幾許不幸に、人の幸の幾許幸ならんかを想ひて、又己の失敗の幾許無残に、人の成効の幾許十分ならんかを想ひて、又己の契の幾許薄く、人の縁の幾許深からんかを想ひて、又己の受けし愛の幾許浅く、人の交せる情の幾許篤からんかを想ひて、又己の恋の障

碍の幾許強く、人の容れられぬ世の幾許狭からんかを想ひて。(金色夜叉 M)

- (37)然し母と妹との節操を軍人閣下に献上し、更らに又、この十五円の中から五円三円と割いて、母と妹とが淫酒の料に捧げなければならぬかを思い、さすがお人好の自分も頗る当惑したのである。(牛肉と馬鈴薯・酒中日記)

現代語データの中にも、古めいかしい文体を保つ作品の中に見つけられた。

- (38)精神がこれほど素朴な実在感をもつためには、いかに多くを肉体に学ばなければならぬかを思った。(金閣寺)

- (39)「野の百合は如何にして、育つかを思え、勞せず紡がざるなり。今日ありて明日炉に投げ入れらる野の草をも、神はかく装い給えば、まして汝らをや、ああ信仰うすき者よ」(野火)
次の例は疑問詞疑問の力節を取れないが、間接疑問構文と言えるだろうか。

- (40)「行ってくれるかどうか、ひとまず心当りを頼んでみましょう」(花埋み)

2.1.4 不確定

「誰が来たか分かりますか／分かりませんか」「見ている」など、話し手は情報を持っている(かもしれない)が、聞き手に情報がない(話し手以外の誰かの疑念と関わる)ことを表わす述語を「不確定」とした。

- (41)「此の毛唐人めら、汝、何うするか見やあがれ。【後略】」(婦系図 M)

- (42)私は全く後悔しました！ 貫一さん、私は今になつて後悔しました細 悉い事はこの間からの手紙に段々書いて上げたのですけれど、全で見ても下さらないのでは、後悔してゐる私のどんな切ない思をしてゐるか、お解りにはならないでせうが、お目に掛つて口では言ふに言れない事ばかり、設ひ書けない私の筆でも、あれをすつかり見て下すつたら、些とはお腹立も直らうかと、自分では思ふのです。(金色夜叉 M)

- (43)一貴嬢の為めに私がどんなに深い、どんなに強い感じを起したか申しますまい、貴嬢を見て美に撲たれないものはない。(あいびき・めぐりあい M)

- (44)【前略】お化け、どこへいったか知ってる？」(裸の王様)

2.1 相関構文 | | |----------------------------------| | 決め手 | | A スルカハ B スルカ による/に関わる/に影響する/で決まる |

相関構文は、ある事態の真理値が他の事態の真理値と相関することを表す構文で、「に関わる、に影響する、による、で決まる、で決める、で違う、異なる」などの述語を分類した。相関構文は、現代日本語の論説文テキストではかなりの頻度で用いられるが、文学作品にはあまり用例が見つからなかった。特に近代語にはほとんど用例がない。

- (45)それが何時までつづくかは、私の筆の都合と、紙面の編輯の都合とできまるのだから、判然した見当は今付きかねる。(硝子戸の中 M)

- (46) 国民の性情が秩序にむかうか無秩序にむかうか、その鍵は、公的な動機によるか私的な動機によるかによって分れる。(小泉八雲集 M)

- (47) 「冗談じゃないわ、漢方医学が西洋医学に敗れた最大の原因は、この人体解剖を認めるか認めないかにあったのよ。【後略】」（花埋み）
- (48) 帰るか帰らぬかは吟子の意志に任せるといふ友子の気持ちに違いなかった。（花埋み）
- (49) いま、これを書きながらはじめて気づいたのだが、まえにぼくは、未紀への愛を、アメリカ行きが実現するかどうかできめようとしていたが、今度はアメリカに行くか行かないかを未紀のぼくへの愛によってきめようとしていたわけだった。（聖少女）
- (50) 「私たちはあきんどで、吟味役人じゃあないがね、そういう場合にぬすんだ物をどう始末するかは、人によって違うんじゃないか、どっちにしるあの切がおまえの道具袋の中にあったのは間違いのないことなだから」（さぶ）
- (51) あう、それを論文に書くか書かないかは、わたしとしてはそれがどの程度現在の頼央さんの絵に影響しているかをよく考えてからにするつもりです。（エディプスの恋人）

2.1 内容構文

抽象名詞の内容 AbsN-ハ A スルガ-ダ _{指定文}	抽象名詞の内容 A スルガ-トイウ/ノ Abs-N
--	------------------------------

カ節の命題が、当該の抽象名詞句の内容を表わす構文を内容構文とした。

- (52) 問題は、安い航空券のブローカーが出発便の変更を認めてくれるかどうかだったが、それも何とかなりそうな気がした。（一瞬の夏）
- (53) 出産の費用はなんとか支払ったが、一か月五千元の子供の預かり料をどうやって支払うかが、厚子にとってはさし迫った問題であった。（冬の旅1）
- (54) こういう手腕で彼に返報する事を巨細に心得ていた彼は、何故健三が細君の父たる彼に、賀正を口ずから述べなかったかの原因に就いては全く無反省であった。（道草 M）
- (55) 「【前略】露骨に云って終えば、時代におくれやしないかなどいう考えは、時代の中心から離れて居る人の考えに過ぎないのだろうよ」（野菊の墓 M）
- (56) 背から剣抜くか脇から切るか、方法は必ずある筈やと儂は思うてますのや」（華岡青洲の妻）
- (57) 台湾に赴任する家族について行こうか、某病院の看護婦になろうか、この二つがかの女の将来の運命であった。（生 M）
- (58) おりゃ死ぬか生きるかの瀬戸際だ。（あいびき・めぐりあい M）

3. 間接疑問構文の周辺の構文

間接疑問構文は、助詞「か」が要素となる様々な構文との相互交渉の中で発達してきたと考えられる。以下では、高宮（2003, 2004, 2005）を参考にしながら、間接疑問文と関わる周辺の構文について、概観する。構造的に直接疑問構文に近いものから挙げていく。

3.1 二文連置構文

もっとも直接疑問文に近い構造をもつ構文に「二文連置構文」がある。二文連置構文の

前節は、間接疑問節よりも従属度が低く、ダロウや丁寧といった要素を含みうる。「二文連置」という名は野村(1995)による命名だが、句読点による書式が整った現代語において、この構文における2つの文(節)は句点で区切られるよりも読点で区切られる理由があると考えられる。連なった2つの文(節)は何らかの関連性で結ばれている。

3.1.1 独白表出型

- (59)「ほんに、わしゃ今日らお内儀さん処さ行くべと思っていたら、何ちこったかこんな騒ぎではあ行くも出来ねえで、わしゃ昨日帰って来た処なのせえ、お内儀さん」(土M)
- (60)俺はその道を尽してゐるか、尽さうと為てゐるか、思つた女と添ふ事が出来ん。(金色夜叉M)
- (61)膿淋もちの石女が実家で大きな顔をしていると知ったら彼等は何と言うであろうか、気の強いぎんも、そんな眼にさらされてまでも表へ出る気にはなれない。(花埋み)

3.1.2 課題提示型

課題・疑問 A スルカ	(暫定的)判断 B ダ/ダロウ
課題提示句	解答提示句

- (62)おれはだまって、天麩羅を消して、こんないたづらが面白いか、卑怯な冗談だ。(坊ちゃんM)
- (63)お嗤いになりますでしょうか、私は恐れたものではございません。(草の花・春)
- (64)そうになったら、日本はどうなるか、こののち長い年月にわたって、たいへんな苦しみと暗黒のうちに置かれることになるかもしれない。(昭和天皇, BCCWJ より)

3.1.3 背景注釈型

背景推論 A スルカ	様子・現われ B スル
注釈句	事実叙述句

背景注釈型とは、後節で表される事実の背後にある事情(主に原因・理由)を推論し、それを前節に注釈句として添えた構文である⁸。後続の「事実叙述句」には、ダロウやカモシレナイなどのモダリティはつかない。また、間接疑問構文と異なり、文全体を疑問文にすることもできない。前節には、「からか」「ためか」「せいか」「V-シテか」といった形式が用いられることも少なくない。

- (65)校長はいつ帰ったか姿が見えない。(坊ちゃんM)
- (66)鹿は少しも人の居るに気が付かぬかして、小藪の蔭を閑に歩るいて此方に近いて来た。(武蔵野M)
- (67)人の浅ましきか、私の愚なるか、恩人は酷くも我を欺きぬ。(金色夜叉M)
- (68)どこで仕入れやがったか、しこたま煙草の葉を腹へ巻いてやがる。(野火)
- (69)「や、どうも、手紙を書きかけてたもんだから……」とはいって来た仙吉はさすがにこの場のけはいがぴんと応えたか、椅子にかけようとした腰をまた浮かせて、「辰子、著物を出し

⁸ 背後にある事情を推論するので、現代語では前節が「Vスルノカ」と、「の」が入ることが多い。

てくれ、すぐ出かけるんだ、【後略】」（葦手）

次のような「節-カシテ」という背景注釈句は、近代語にのみ見られる。

- (70) 【前略】靴の塵埃だらけも好いが、その横腹の皺目の擦切れた隙から、靴下も穿かぬかして、素足の甲が微見える。（其面影 M）
- (71) 【前略】遊ぶに屈強なる年頃なればにやこれを初めに一週には二三度の通ひ路、お力も何処となく懐かしく思ふかして三日見えねば文をやるほどの様子を、朋輩の女子ども岡焼ながら弄かひては、（にごりえ・たけくらべ M）

3.1.4 照応型 | | | |-------|-------| | 疑問の内容 | 前節の照応 | | A スルカ | ソレ-助詞 | （心理述語）

- (72) 自分ではガギンに会たくなかった積でいたが、内々はアーシャがどうするであろうか、また昨日のように変な風をして見せるであろうか、それが見に往きたくなかったので。（あいびき・めぐりあい M）
- (73) どうして、教育労働者はそろいもそろって精神的貧民なのでしょうか、これもふしぎなことですね。（聖少女）
- (74) 然し機嫌買な彼がどの位綿密な程度で細君に説明してやったか、その点になると彼はもう忘れていた。（道草 M）

3.1.5 潜伏疑問型 | | | | |-------|---------|------| | 疑問の内容 | 対 | 象 | | A スルカ | AbsN-助詞 | 潜伏疑問 | 心理述語

- (75) 「何時伺ったら好いか御都合を聞かして頂きたいんですって」（道草 M）
- (76) 飯田町の子分の内には、玄関の揚板の下に、どんな生意気な、婦の下駄が潜んでるか、鼻緒の色まで心得てるんだ。（婦系図 M）
- (77) 谷を見下したが、どこで鳴いてるか影も形も見えぬ。（草枕 M）
- (78) 答はあらで、眩くか、規くか、小声ながら頻に物言ふが聞ゆるのみ。（金色夜叉 M）
- (79) それは、だましているからだ、このアパートの人たち皆に、自分が好意を示されているのは、自分も知っている、しかし、自分は、どれほど皆を恐怖しているか、恐怖すればするほど好かれ、そうして、こちらは好かれると好かれるほど恐怖し、皆から離れて行かねばならぬ、この不幸な病癖を、シゲ子に説明して聞かせるのは、至難の事でした。（人間失格）
- (80) シゲ子や矢須子は勿論のこと、僕も三里とはどこだか正確なことを知らないの、シゲ子が家主の隠居さんに聞いて来て、（黒い雨）

3.2 選言構文 | | | |-------|------| | A スルカ | B スル | |-------|------| , | | | | |-------|-------|----| | A スルカ | B スルカ | スル | |-------|-------|----| ,

属性1	属性2
X ハ A スルカ	B スルカ-ダ

指定文

- (81) 女はうんとしゃべるか、全然しゃべらないかだ。（聖少女）

(82)しかし彼らはたいてい貧しいか、富みすぎていないかで、生活をもち、友人があり、土の匂いを身につけていた。(裸の王様)

次のような、「A スルカ B スルカ スル」という構文は、近代語には見られない⁹。

(83)私の側の窓際には、小父さんがカストリ雑誌を読むか、居睡りをするかしていた。(草の花・冬)

3.3 その他の慣用的構文

3.3.1 前後構文

(84)今の三越の向側に何時でも昼席の看板が掛かっていて、その角を曲ると、寄席はつい小半町行くか行かない右手にあったのである。(硝子戸の中 M)

(85)漸くの想で家へ着くと、狼狽てて車を飛降りて、車賃も払ったか、払わなかったか、卒然門内へ駆込んで格子戸を引明けると、パッと灯火が射して、その光の中に人影がチラチラと見え、【後略】(平凡 M)

3.3.2 仮想構文 A スルカ-ノヨウニ/ゴトク, A スルカ-ニ見える/思える

(86)垣ができてから一週間ばかりしたころ、長い日照りも、風と電光と雷鳴をともなった、烈しい暴風雨でおわった一雷鳴は、まるで地震に襲われたかのように、その轟音で町全体を震わせるほどすさまじかった。(小泉八雲集 M)

次のような、「節-かに 見える/思える」という構文は、近代語にはほぼ見られない。

(87)そして、実際、ある時期までは非常にうまくいっているかに見えたのだ。(一瞬の夏)

3.3.3 が早いか構文 (主に近代)

(88)僕の飛び乗るが早いか、小舟は入江の方へと下りはじめた。(牛肉と馬鈴薯・酒中日記)

4. おわりに

以上、近代語と現代語の間接疑問構文とその周辺の構文について、観察的な記述を行った。今後は、カ節に助詞がつくか否かという問題についても考察し、間接疑問構文と周辺の構文との相互関係のあり方を探っていきたいと考えている。

なお、本論で触れられなかったが、各時代における間接疑問節の種類は次のようになっている。高宮(2005)によれば、疑問詞疑問の間接疑問節は江戸時代後期になって一般的になったというが、今回のデータを見る限り、近世に近い近代語において、疑問詞疑問の間接疑問構文の割合がより高くなっている。今回のデータから推察する限りでは、近代語においては「かどうか」という形式が安定しておらず、肯否疑問の使用が不安定だったかと考えられるが、今後、より精緻な調査が必要である。

⁹ 翻訳作品である『小泉八雲集』に2例あるのみである。

表 12：近代語：間接疑問節の種類

疑問詞	肯否	正反	選択	TOTAL
341	55	25	6	427
80%	13%	6%	1%	100%

表 13：現代語：間接疑問節の種類

疑問詞	肯否	正反	選択	TOTAL
312	99	4	13	428
73%	23%	1%	3%	100%

参考文献

- 石居康男（2008）「日本語の『懸垂疑問文』に関する一考察」『文の語用論的機能と統語論：日本語の主文現象からの提言』（1），平成19年度科学研究費補助金研究成果報告書，63-81.
- 江口 正（1996）「間接疑問節の担う意味役割—特に「決め手」解釈について」『愛知県立大学外国語学部紀要 言語・文学編』28，343-358.
- 江口 正（1998a）「日本語の間接疑問節の文法的位置づけについて—不定的同格要素として—」『九大言語学研究室報告』（19），5-24.
- 江口正（1998b）「引用節・間接疑問節と内容名詞句の共起関係について」『愛知県立大学外国語学部紀要言語・文学編』30，325-344.
- 衣畑智秀（2014a）「係り結びがもたらす疑問助詞の分布制約—日本語詞と琉球語から—」日本語学会148回大会口頭発表予稿集，212-217.
- 衣畑智秀（2014b）「宮古伊良部方言の疑問系係り結び」日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究・第5回研究発表会（大阪大学）ハンドアウト.
- 衣畑智秀・岩田美穂（2010）「名詞句位置の力の歴史—選言・不定用法を中心に—」『日本語の研究』6（4），1-15.
- Kinsui, Satoshi（2007）”The Interaction between Argument and Non-argument in the Diachronic Syntax of Japanese,” in *Current Issues in the History and Structure of Japanese*, pp. 253-261, Kurosio Publishers.
- 志波彩子，金水 敏（2015）「古代語・現代語資料の場合—コーパスからデータへ」JLVC2015（国立国語研究所 時空間変異研究系 合同研究発表会）ハンドアウト
- 高宮幸乃（2003）「現代日本語の間接疑問文とその周辺」『三重大学日本語学文学』14，116-104.
- 高宮幸乃（2004）「2004」ヤラ（ウ）による間接疑問文の成立：不定詞疑問を中心に」『三重大学日本語学文学』15，124-111.
- 高宮幸乃（2005）「格助詞を伴わないカの間接疑問文について」『三重大学日本語学文学』16，

104-92.

高山善行 (2014) 「疑問文とモダリティの関係をどう捉えるか」 日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究・第4回研究発表会 (NINJAL) ハンドアウト.

竹村明日香・金水敏 (2014) 「中世日本語資料の疑問文—疑問詞疑問文と文末助詞との相関 —」 『日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究 報告書』 (1), 3-20.

野村剛史 (1995) 「カによる係り結び試論」 『国語国文』 64(9), 1-27.

服部 匡 (1992) 「現代語における「～か」のある種の用法について」 『徳島大学国語国文学』 5, 57-65.

藤田保幸 (1997) 「従属句「～カ(ドウカ)」再考」 『滋賀大学教育学部紀要. II, 人文科学・社会科学』 47, 160-151.

用例抽出資料

近代語データ : 『CD-ROM 明治の文豪』 より (表題の作品以外の作品も含まれる)

二葉亭四迷 (1864 生) 『平凡』 『浮雲』 『其面影』 『あいぎき・めぐりあい』 / 尾崎紅葉 (1868 年) 『金色夜叉』 / 森鷗外 (1862 生) 『雁』 『青年』 『キタ・セクスアリス』 (1909 年) 『阿部一族・舞姫』 『山椒大夫・高瀬舟』 / 樋口一葉 (1887 生) 『にごりえ・たけくらべ』 / 国木田独步 (1871 生) 『武蔵野』 『牛肉と馬鈴薯・酒中日記』 / 小泉八雲(著), 上田和夫 (1928 生) (訳) 『小泉八雲集』 (影、日本雑記、骨董、怪談、天の川物語その他、知られぬ日本の面影、東の国より、心、仏陀の国の落穂、霊の日本にて) / 夏目漱石 (1867 生) 『門』 『草枕』 『道草』 『三四郎』 『硝子戸の中』 『坊っちゃん』 / 田山花袋 (1872 生) 『蒲団・重右衛門の最後』 『田舎教師』 『生』 / 伊藤左千夫 (1864 生) 『野菊の墓』 / 石川啄木 (1886 生) 『一握の砂・悲しき玩具』 / 泉鏡花 (1873 生) 『歌行燈・高野聖』 『婦系図』 / 長塚節 (1879 生) 『土』

現代語データ : 『CD-ROM 新潮文庫の 100 冊』 より

井伏鱒二 (1898 生) 『黒い雨』 (1965) / 石川淳 (1899 生) 『葦手』 / 山本周五郎 (1903 生) 『さぶ 1』 (1963) / 石川達三 (1905 生) 『青春の蹉跎』 (1968) / 井上 靖 (1907 生) 『あすなろ物語』 (1953) / 松本清張 (1909 生) 『点と線』 (1957) / 大岡昇平 (1909 生) 『野火』 (1951) / 太宰 治 (1909 生) 『人間失格』 (1948) / 福永武彦 (1918 生) 『草の花』 (1954) / 水上勉 (1919) 『越前竹人形・雁の寺』 (「越前竹人形」「雁の寺」所収) (1961) / 吉行淳之介 (1924 生) 『砂の上の植物群』 (1964) / 三島由紀夫 (1925 生) 『金閣寺』 (1956) / 立原正秋 (1926 生) 『冬の旅』 (1969) / 北 杜夫 (1927 生) 『楡家の人びと』 (1964) / 開高 健 (1930 生) 『裸の王様』 (1957) / 三浦哲郎 (1931 生) 『忍ぶ川』 (「帰郷」「幻燈畫集」「忍ぶ川」「驢馬」所収) (1960) / 有吉佐和子 (1931 生) 『華岡青洲の妻』 (1966) / 渡辺淳一 (1933 生) 『花埋み』 (1970) / 井上ひさし (1934 生) 『ブンとフン』 (1970) / 筒井康隆 (1934 生) 『エディプスの恋人』 (1981) / 大江健三郎 (1935 生) 『死者の奢り・飼育』 (「死者の奢り」「飼育」「人間の羊」「戦いの今日」「他人の足」所収) (1957) / 倉橋由美子 (1935 生) 『聖少女』 (1965) / 椎名 誠 (1944 生) 『新橋烏森口青春編』 (1985) / 沢木耕太郎 (1947 生) 『一瞬の夏』 (1981)

表 14 : 近代語データの検索結果 (重複用例, 削除用例含む)

Corpus	総語数	異なり語数	検索結果数	検索結果数/総語数
野菊の墓	38677	5740	198	0.5119
牛肉と馬鈴薯	107811	11557	610	0.5658
武蔵野	107298	13690	452	0.4213
小泉八雲集(翻訳作品)	146496	13098	539	0.3679
中々・セクスアリス	16960	4794	20	0.1179
阿部一族・舞姫	27693	5929	111	0.4008
雁	1157	537	0	0
山椒大夫・高瀬舟	12464	2925	62	0.4974
森鷗外『青年』	2361	775	7	0.2965
一握の砂・悲しき玩具	37211	6936	297	0.7982
歌行燈・高野聖	83614	11323	339	0.4054
泉鏡花『婦系図』	124866	12352	737	0.5902
長塚節『土』	161809	11816	610	0.377
田山花袋『布団・重右衛門の最後』	66648	8334	352	0.5281
田山花袋『生』	76045	8489	411	0.5405
田山花袋『田舎教師』	13	11	0	0
二葉亭四迷『あいびき・めぐりあい』(翻訳作品)	84856	10141	620	0.7306
二葉亭四迷『其面影』	87183	8916	612	0.702
二葉亭四迷『浮雲』	99749	12409	621	0.6226
二葉亭四迷『平凡』	61311	8048	346	0.5643
樋口一葉『にごりえ・たけくらべ』	96488	12661	702	0.7276
尾崎紅葉『金色夜叉』	192313	15432	1237	0.6432
漱石『坊っちゃん』	63435	8094	404	0.6369
漱石『三四郎』	1982	837	4	0.2018
漱石『硝子戸の中』	42810	6217	238	0.5559
漱石『草枕』	76446	11320	422	0.552
漱石『道草』	101654	9501	579	0.5696
漱石『門』	101095	10111	399	0.3947
TOTAL	2020445		10929	0.5409%

表 15：現代語データの検索結果（重複用例，削除用例含む）

Corpus	総語数	異なり語数	検索結果数	検索結果数/総語数
あすなろ物語1	12457	2288	64	0.5138
あすなろ物語3	12373	2398	74	0.5981
エディプスの恋人	85293	7728	659	0.7726
さぶ1	80756	7855	471	0.5832
一瞬の夏 02	24552	3805	131	0.5336
花埋み1	83405	9836	475	0.5695
華岡青洲の妻	74534	8898	412	0.5528
裸の王様	30190	5101	114	0.3776
金閣寺	108927	12111	436	0.4003
死者の奢り(健三郎)	17021	2911	47	0.2761
人間の羊(健三郎)	9615	2178	22	0.2288
戦いの今日(健三郎)	25097	4392	84	0.3347
他人の足(健三郎)	8485	1864	22	0.2593
黒い雨	129481	12941	752	0.5808
砂の女1	24066	4695	136	0.5651
葦手	28176	5467	243	0.8624
砂の上の植物群	64593	6545	328	0.5078
新橋烏森口青春篇5	8669	1974	55	0.6344
人間失格	46367	6445	197	0.4249
越前竹人形	61789	7223	292	0.4726
雁の寺	37994	5624	228	0.6001
世界の終わり 07	10438	2311	66	0.6323
聖少女	87473	10488	398	0.455
青春の蹉跎	93719	8264	551	0.5879
草の花・春	5492	1411	31	0.5645
草の花・冬	16935	3129	79	0.4665
帰郷	15185	3094	76	0.5005
幻燈畫集	11185	2801	32	0.2861
驢馬	32458	5141	140	0.4313
点と線	70854	6540	499	0.7043
冬の旅1	93461	7444	691	0.7393
野火	64325	7561	343	0.5332
榆家の人びと(第1部)	119995	13641	449	0.3742
TOTAL	1595360		8597	0.5389%